

特集「オブジェクト指向と Web 技術」の編集にあたって

野呂昌満[†] 田村直樹^{††}

プログラミング言語の計算モデルを端緒とするオブジェクト指向技術は、今日、ソフトウェア・システム開発に必要な不可欠な技術としてソフトウェアの開発現場に広く普及・定着している。昨今では、ネットワーク社会を支えるソフトウェア構築の基盤技術としても認知され、Web 情報システムの開発技術の核をなすものとなっている。さらにアスペクト指向プログラミング等の Post Object Programming 技術の母体ともなっている。

情報処理学会ソフトウェア工学研究会では、このような技術の発展を続けるオブジェクト指向技術に対して、過去 9 年間に渡って、オブジェクト指向シンポジウムを開催してきた。毎回、200 名を越える参加者が集い、産学の枠を越えた技術の方向性を議論を展開する場として、研究と実践の双方の立場から活発な議論をかわしてきている。

本特集号は、このように学会員の関心の高いオブジェクト指向技術を中心に、特に昨今その重要性を増している Web 情報システムの開発技術を対象として、基礎技術や、ソフトウェア・システムの開発手法等の応用技術、さらに開発事例の最新研究成果を集め、一括掲載することを狙って、企画したものである。このような特集号を発行することで、この分野の研究の最新動向や技術水準を広く共有し、今後の研究推進に役立てていただけることを期待している。

特集号編集委員会は、オブジェクト指向 2003 シンポジウムのプログラム委員長の野呂と実行委員長の田村がゲストエディタとなり、論文誌編集委員を中心に 21 名の編集委員から構成した。本特集号の論文募集では、オブジェクト指向 2003 シンポジウムの発表者に限定せず、広く一般から論文を公募することとした。2003 年 10 月 14 日に論文募集を締め切り、23 件の論文を投稿いただいた。その後、厳正な査読と 2 回の編集委員会を経て、最終的に 11 件の論文を採録した。独創的な研究に加え、産業界での実践に基づく経験論文を積極的に評価する方針を取った。内訳は、オブジェクト指向 2003 シンポジウム関連論文が 2 件、一般からの投稿が 9 件となっている。本特集号の当初の狙い

どおり、リアルタイム組込みシステムから Web 情報システム開発までの様々な適用分野を対象にした、基礎技術、ソフトウェア・システムの開発手法、適用システムの開発事例等の最新成果を幅広く収録できたと考えている。

最後に、本特集号をゲストエディタ制度によって企画・実現する機会を与えて下さった論文誌編集委員会と、多数の秀でた論文を投稿いただいた方々に感謝する。また、特集号編集委員ならびに査読を担当して下さい下さった多くの方々に感謝したい。

「オブジェクト指向と Web 技術」特集編集委員会

- 編集長
 - 野呂 昌満 (南山大)
 - 田村 直樹 (三菱電機)
- 編集委員
 - 青木 利晃 (北陸先端大)
 - 青山 幹雄 (南山大)
 - 鯨坂 恒夫 (和歌山大)
 - 飯島 正 (慶大)
 - 今城 哲二 (東京国際大)
 - 上原 三八 (富士通研)
 - 大須賀昭彦 (東芝)
 - 大西 淳 (立命館大学)
 - 岸 知二 (北陸先端大)
 - 久野 靖 (筑波大)
 - 佐伯 元司 (東工大)
 - 佐藤 直人 (日本 IBM)
 - 玉井 哲雄 (東大)
 - 田原 康之 (東芝)
 - 中島 震 (情報研)
 - 中谷多哉子 (S-Lagoon)
 - 羽生田栄一 (豆蔵)
 - 深澤 良彰 (早大)
 - 山本修一郎 (NTT データ)
 - 増原 英彦 (東大)
 - 三ツ井欽一 (日本 IBM)

[†] 南山大

^{††} 三菱電機